

報告第 27 号

令和 6 年度公益財団法人宇治市野外活動センター経営評価の
報告について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第 5 条
第 1 項の規定に基づき、令和 6 年度公益財団法人宇治市野外活動セ
ンター経営評価について、別紙のとおり報告する。

令和 7 年 9 月 18 日提出

宇治市長 松 村 淳 子

7 公財宇野活第 84 号

令和 7 年 5 月 31 日

宇治市長 松村 淳子 様

宇治市西笠取辻出川西 1 番地

公益財団法人 宇治市野外活動センター

代表理事 杉 本 厚 夫



宇治市出資法人自己評価報告書の提出について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第 4 条第 2 項に基づき、
次のとおり報告します。

第1号様式

宇治市出資法人自己評価報告書

1. 法人の概要

団体名	公益財団法人 宇治市野外活動センター	設立年月日	平成 11 年 3 月 24 日
公益財団法人への移行年月日			平成 23 年 4 月 1 日
基本財産	50,000 千円 (移行前 50,000 千円 うち市出えん・出資額 50,000 千円 出資比率 100%)		
設立目的	宇治市総合野外活動センターの管理・運営を行うとともに、野外活動に関する事業を通じて、青少年の豊かな感性と責任感を育み、人々の学ぶ喜びを増進し、人と人との連帯感を高めることにより、生涯学習の推進を図り、もって新しい文化と活力ある地域社会の創造に寄与することを目的とする。		

2. 役職員等の状況

		令和 4 年度			令和 5 年度			令和 6 年度		
		市職員	元市職員		市職員	元市職員		市職員	元市職員	
役員等	常勤	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	非常勤	12	0	5	13	0	3	13	0	3
職員	管理職	2	0	0	2	0	0	2	0	0
	一般職	8	0	0	8	0	0	8	0	0
	計	10	0	0	10	0	0	10	0	0

*役員等と職員を兼務している場合はそれぞれ1人でカウントしている。

3. 事業の概要

主要事業名	事業内容
活動支援事業	センター利用者の円滑な活動を支援するため、天体観察での天文ボランティアの手配や創作活動の指導、助言を行うとともに、農業体験やふるさと体験のできる活動を紹介し、その実施について調整を図った。また、より充実した活動プログラムの開発を行うため、野外活動に関する最新情報の収集を行った。
野外活動奨励事業	予約不要のイベントを開催し、市民が気軽に野外活動に親しめる機会を提供するとともに、幅広い層に野外活動センターの利用が促進されることを目指した。
活動体験事業	生涯学習の推進を図るため、天文教室、陶芸教室等、様々なイベントを企画・実施した。
宇治市総合野外活動センター管理運営事業	総合野外活動センターの管理運営を宇治市より指定管理者として指定を受け、施設の管理運営業務を行った。
その他自主事業	施設外でのイベント開催や外部事業者との提携を図るなど、設置施設の枠組みにとらわれない柔軟な事業展開を行った。 食堂及び売店運営業務を有限会社笠取ファームに委託し、地域の特色を生かした食事提供や物品販売を行った。 お客様のニーズにこたえ利便性を高めるため、新たな利用プランや貸出物品を追加した。

4. 財務状況

1) 正味財産の状況

(単位：円)

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収 益	145,864,028	160,213,513	157,435,594
収益事業収益等	31,943,091	39,623,976	42,967,185
市支出金	113,920,937	120,589,537	114,468,409
人件費	71,612,834	82,201,425	78,426,180
事業費	42,308,103	38,388,112	36,042,229
費 用	145,693,092	160,010,174	156,137,130
人件費	71,612,834	82,208,947	78,445,627
事業費	74,080,258	77,801,227	77,691,503
当期経常増減額	170,936	203,339	1,298,464
当期正味財産増減額	170,936	102,624	1,318,224
正味財産期末残高	52,837,737	52,940,361	54,258,585

2) 貸借対照表

(単位：円)

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産合計	113,718,444	117,270,730	117,425,305
流動資産	22,480,007	18,233,363	15,129,697
固定資産	91,238,437	99,037,367	102,295,608
負債合計	60,880,707	64,330,369	63,166,720
流動負債	22,177,548	18,278,129	13,583,369
固定負債	38,703,159	46,052,240	49,583,351
正味財産合計	52,837,737	52,940,361	54,258,585
基本財産	50,000,000	50,000,487	50,020,247
その他正味財産	2,837,737	2,939,874	4,238,338

3) 市財政支出の状況

(単位：円)

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
補助金	0	0	0
委託料	113,920,937	120,589,537	114,468,409
その他(分担金等)	0	0	0
計	113,920,937	120,589,537	114,468,409
貸付金	0	0	0
借入金残高(期末)	0	0	0
市の債務保証残高(期末)	0	0	0
市の損失補償残高(期末)	0	0	0

4) 主要経営指標

指標	算式	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	人件費計÷費用計	49.2%	51.4%	50.2%
自己資本比率	正味財産計÷資産計	46.5%	45.1%	46.2%
流動比率	流動資産÷流動負債	101.4%	99.8%	111.4%
借入金依存度	借入金残高÷総資産	0%	0%	0%
借入金返済能力	長期借入金÷(減価償却費+税引後利益)	0%	0%	0%

5. 経営評価（法人自己評価）

視点	評価	コメント
目的適合性	A	・近年の社会情勢の変化の中で、自然とのふれあい・自然の中での交流など自然に対する関心が高まりつつあり、総合野外活動センターの果たす役割と期待は大きく、より多くの市民に余暇活動や生涯学習の場を提供できるような取組や、地域振興を兼ねた農業体験イベントを実施するなど、財団設立の目的に合致した施設運営を行っている。 ・指定管理者として管理運営業務仕様書、協定書に基づき事業を計画、実施した。 ・イベント実施にあたっては SDGs 目標を設定し、チラシ等で SDGs の周知に努めた。
効率性	B	・林間学習において小学校間の利用調整を行い、より多くの学校にご利用いただけるよう効率的な施設運営に取り組んだ。 ・冬期の利用促進を目的に毎週末イベントを実施するなど、施設利用促進に努めた。 ・団体利用誘致のため、「スポーツ合宿プラン」、「研修プラン」やボーイスカウト向けパンフレットを作成し施設の PR を図った。 ・稼働率の低い施設の利用を促進するため、「オートキャンプ」、「森と星キャンプ」プランを販売した。森と星キャンプは春夏と秋冬で設備を更新し、オートキャンプは新たに日帰り利用プランも追加した。 ・年間を通じて節電・節水を励行し経費の縮減に努めた。 ・各イベントについてはホームページからの申込受付や、メールインフォメーション、SNS で情報を発信し集客に努めた。 ・予約不要の工作イベントを開催し、お客様のニーズにこたえとともに工作収入の増収に取り組んだ。 ・主催大会の定期開催や回数券、お得なセットプランを販売するなど、グラウンド・ゴルフの普及に努めた。 ・テレビ、ラジオ、雑誌、Web 媒体等の取材に情報発信し、施設の PR に努めた。 ・キャッシュレス決済を周知し、お客様の利便性向上と事務効率化を図った。 ・施設利用申請手続きの簡略化を進め、お客様の利便性を高めるとともに、業務効率化、コスト削減につなげた。また、手続きのオンライン化に向けて市とも検討を重ねているが、実現には至っていない。 ・利用者数合計は前年比 8% 増となり、その他自主事業も事業内容を拡大し収益を伸ばした。一方、利用料金収入は前年度比では増加となったものの、目標値は達成できなかった。
組織運営健全性	A	・職員一人ひとりがコスト意識や施設経営を意識するように心がけ、サービス向上に努めた。また、各種研修やセミナーに参加しスキルアップに取り組んだ。 ・公益財団法人として理事会・評議員会・監査は定期、随時に行った。 ・法人運営にあたっては、各種法令、規則を遵守した。 ・業務継続計画（BCP）や安全管理マニュアルを策定し、リスクに備えた。
財務健全性	A	・公益法人会計基準に基づき適正に処理を行うとともに、日常の経理業務での会計ソフトの利用やレジアプリの導入により、業務効率化を図った。 ・基本財産についてはリスクの低い定期預金と国債で確実に運用した。 ・財務状況の透明性をより高めるため、財務状況（貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録等）をホームページ上で公開した。 ・各種業務、人員配置の見直しにより、必要経費の縮減に努めた。
総合評価	A	・指定管理者として合理的かつ効率的な施設運営を心がけ、公益法人としてより多くの方々に施設を利用していただけるよう、各種事業を展開した。 ・市内のみならず市外・府外からの利用者の増加をめざし、ホームページや SNS、その他広報活動による情報発信により認知度を高めた。 ・お客様に安全かつ安心してご利用いただけるよう、適宜修繕や施設整備に努めた。 ・指定管理者として健全な経営を持続発展できるよう、業務効率化による経費の削減と、その他自主事業の拡大等、収益力の強化に努めた。 ・宿泊利用者数は前年同数程度、日帰り利用者数はグラウンド・ゴルフ利用の増加や日帰りオートキャンプサイトの新設もあり、前年比約 12% 増となった。年間利用者数は 96,868 人と前年より約 8% 増加し、コロナ前の水準に回復した。

評価の目安 A：良好である B：ほぼ良好である C：やや課題がある D：課題が多い